

催し物案内

2/6(水)～10(日) 2/13(水)～17(日)

月輪 清くパリとプロヴァンス展

p 3で画集を紹介した月輪 清さんのフランス滞在中の作品が展示されます。

会場 三重画廊 (津市中央 059-225-6588)

※なお展示は2期にわかれ、作品が入れ替わります。

2/10(日) ハープとフルート、ヴィオラで贈るコンサート

本会会員のハーピスト荒木まどかさんに、フルート増本龍士、ヴィオラ富田大輔両氏が共演、
フォーレ作曲：パヴァーヌ、武満徹作曲：ヴォイスなどを演奏します。

日時 2月10日 13:30 開演

会場 飯南産業文化センター (松阪市飯南町横野 059-232-3950)

入場料 1,500円 (当日 2,000円) 主催者の意向で中学生以下入場不可

3/8(金) 村林浩代ソプラノリサイタル (後援事業)

日時 3月8日(金) 18:30 開演

会場 津リージョンプラザお城ホール

出演 村林浩代(本会会員)さんのほか、大西宣人(フルート)、早川由里(ソプラノ)の
各氏、合唱団「うたおに」など

入場料 <前売> 一般 2,000円 学生 1,000円

<当日> 一般 2,500円 学生 1,500円

(演奏曲目) モーツァルト『フィガロの結婚』からアリア他、オペラ、ミュージカルの
名曲

4/14(日) 2013・柏木隆雄文芸講演会

恒例の柏木先生(大手前大学学長・フランス文学)の文芸講演会。今年も放送大学三重学習セン
ターと共催で開催します。

日時 4月14日(日) 14時からの予定

会場 三重県総合文化センター・生涯学習センター視聴覚室

演題 『ルソーと島崎藤村』(予定)

詳細は次号<done>でお知らせします。

伊藤隆之さんの演奏がYouTubeで視聴できます

四日市市出身でパリで音楽活動を続けているピアニスト伊藤隆之さん演奏の
ドビュッシーの曲がYouTubeにアップロードされています。<Debussy ito>で検
索してみてください。



donec どんく

N°96 janvier 2013 SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

発行

三重日仏協会

SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

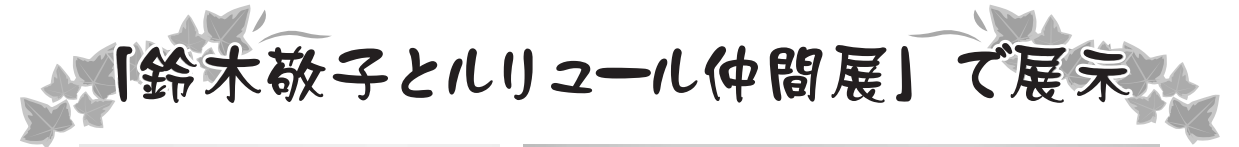
〒514-0006 津市広明町418

418, Komei-cho Tsu-shi

TEL 059-226-2766

FAX

本紙<donec>バックナンバーが美装本に



日本では少ないルリユール(製本・装丁)の工芸家、津市の鈴木敬子さん(本会
会員)とそのお弟子さんたちの作品100点余を展示する「鈴木敬子とルリユール仲
間展」が昨年12月三重県立美術館県民ギャラリーで開催され、800人以上の来場者
はその精緻でセンスあふれる作品群に感服した面持ちで鑑賞していました。特に鈴
木さんの作品は、各種の皮、クロス、和洋紙、麻布、伊勢木綿、プラチナ箔などの
素材を駆使して作られ、それら約50点の中身は、詩集、俳句集、版画、ゲストブッ
クなど多様です。その中に三重日仏協会会報<donec>のバックナンバー・創刊号か
ら50号までが、布クロスとマーブルペーパーによる帳簿製本で美しく装丁され展示
されていました(写真)。なお、さらに本紙が100号に達したとき第2巻を製本して
いただく予定です。

鈴鹿出身の仏詩翻訳家石邨幹子について

橋本 俊明



遺著『残影』より 石邨幹子
(何歳ぐらいの写真かは不明)

去る11月10日、鈴鹿市で行われた国際交流セミナー「これがフランス??」（講師井土真杉氏）を聴講する機会があった。鈴鹿出身の翻訳家石邨幹子は晩年、日仏協会だか日仏会館だかによく出入りしていたと聞いていたので、それを確かめるべく出席してみた。講演は大変面白かったが、幹子については触れられなかった。思い切って質問したところ、逆に三重日仏協会の機関誌に紹介して欲しいと依頼されてしまった。これは困ったと思いつつも、拙文を見て何か情報が得られればと、勇を鼓して書かせて頂くことにした。執筆の今日は12月16日、28年前の彼女の命日でもある。

さて、石邨幹子であるが、明治33年8月16日、河芸郡玉垣村（現鈴鹿市西玉垣町）に生まれた。兄弟姉妹はない。

父西尾重（しげる）は医師で県議、母まき子は三重郡河原田村河尻（現四日市市川尻町）の医師中村良造の次女である。母まき子も叔母田鶴子も佐佐木信綱の歌弟子であるが、田鶴子は軍人柴生田鉄猪に嫁ぎ、稔を産む。のちに斎藤茂吉門の高足として知られ、歌誌「アララギ」の選者も務めた柴生田稔その人である。稔は伯母の嫁先西尾医院で生まれたので、現代を代表する歌人柴生田稔の出生地は鈴鹿市となっている。幹子の母方の祖母園は歌をやらなかったが、園の姉幸子（亀山藩医橘良珉妻）は弘綱、信綱父子の弟子であった。幸子の四女糸重はピアニストとしても高名で、信綱と一緒に第一回帝国芸術院会員に選ばれている。短歌の方は明治を代表する女流歌人でもある。橘糸重は島崎藤村の恋人として噂された人で『水彩画家』の柳沢清乃や『家』の曾根千代のモデルといわれる。幹子は糸重を「橘のおばさん」と呼んでいたようだ。この家系は職業として多くの医師や学者を輩出しているが、他方、歌人ほか芸文に秀でた人物が沢山出ており、どうやら幹子の文学的DNAは母方から受けたものらしい。

大正7年、幹子は東京女子師範付属高女を卒業する。その翌年、日本女子大英文科に入学するも、京都の医学士田川勘五郎（二代目西尾重を襲名）と結婚のため中退した。父親の重が大正9年には病没しており、病が重篤となったため、結婚を速めたものと推察される。勘五郎と京都で4年間を過ごしたが、愛知医大教授として赴任の翌年の大正14年、夫とは死別した。その後、フランスで知り合った年下の建築家石邨篤と再婚、二人の間に一男を挙げた。この長男輝夫は幼少期、父母と離れて祖母の手で鈴鹿市で育ったらしい。この人は今も町田市に健在で、舞台演出家として活躍していると仄聞したことがある。

前後するが幹子のフランスとの関係であるが、夫の死後自活するために京都に戻り、昭和2年婦人帽の店を出した。その10月から関西日仏学館へも通い出した。帽子、モードの雑誌のフランス語がわかればというのが理由らしい。さらにフランス語を習熟すべく、昭和5年6月末にフランスへ出発。パリのアリアンス・フランセエズ近代フランス語科高等部に入学し、2年後の昭和7年6月末に卒業した。帰国後、ポオル・ジェラルディ『お前と私』（昭和9年、三笠書房刊）の訳詩集を皮切りに、『つみくさー現代フランス閨秀詩選』（昭和18年、桜井書房刊）、ジャン・ド・ブリュノーフ『象ちゃんババアルのおはなし』（昭和25年、世界文学社刊）、マリイ・ローランサン『夜たちの手帖』（昭和35年、アポロン社刊）などを刊行するとともに、『世界の詩集12 世界女流名詩集』（昭和43年、角川書店刊）にヴァルモールの訳詩2篇なども寄稿している。また、昭和52年には佐藤春夫の詩の仏語訳集 <Choix de Poésies de Satô Haruo, Etoile (récit)>も出版している。

昭和59年12月16日死去。享年86。遺著として日本語の自作詩集『残影』（昭和62年9月、丸善出版サービス刊）および『サアディの薔薇 マルスリヌ・デボルド=ヴァルモールの詩と生涯』（昭和63年、サアディの薔薇の会刊）が上梓されている。

（鈴鹿市在住、近・現代文学史研究者）

編集部より

今回は会員外の方からの原稿を頂戴しました。昨秋、鈴鹿市国際交流協会主催「国際理解セミナーⅡ フランス」の催しに請われてつたない話をした際、橋本俊明さんと初対面、フランス詩の翻訳家石邨幹子（故人）という女性の存在を教えてくださいました。三重県出身でそんな方がいたのか、<donc>読者にも知っていただきたいと思い、橋本さんに紹介の一文をお願いした次第。橋本さんが歌誌『霸王樹三重』の編集発行人で、かつて三重県文化奨励賞や三銀ふるさと文化賞などを受賞された高名な歌人でもあることを後に知りました。

なお、当日の私の「講演」は準備した内容の半分も話せず、各種ツマミだけ出して主菜が間に合わない食事のようなみじめなもので、来聴者には深くお詫びいたします。（井土記）

会員が上梓された新刊書紹介

◆月輪 清／画集『パリとプロヴァンスのスケッチ集』

一昨年から昨年にかけて春から夏はプロヴァンス、秋から冬はパリと、フランスに滞在した1年間の現地風景と、パリのアカデミーでの裸婦デッサンなど約200点を収録。フルカラー印刷、80ページ。(株)アイブレーション発行 2,000円



◆竹田友三歌集／『塞翁』

竹田さんは本会創立以来の会員。「楡」所属、卒寿での第三歌集。

——リヨンなど見たかりしかど遂にゆめかせめては心だけ飛ばしめむ——
短歌研究社発行 2,500円